

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第49回】

「ながえ子ども広場」～学校・保護者・地域で子どもを育てる～

島根県松江市立長江小学校長 福 頼 敬 二

長江小学校は、全校 32 名の小規模校である。地域の少子高齢化がすすみ、平成 10 年には、併設されていた幼稚園は休園となった。子ども達の家は、一軒一軒が離れているところが多く、帰ってからの過ごし方は、テレビやゲームなどが中心といった状況であった。そんな中、平成20年より「ながえ子ども広場」（以下、広場）が始まった。場所は休園中の幼稚園園舎（小学校に隣接）を中心に、小学校の体育館、校庭、また里山として整備されている裏山、学校の前にある川や田んぼなどあらゆるところを活用して実施されている。

「広場」は月曜から金曜日まで学校のある日は毎日開催されており、毎回全児童の約半数が参加している。6名のスタッフの輪番制で、常時 2～3名の体制で子ども達を見守っている。遊びは、原則危なくなければ、子ども達の自由に任せられており、川での魚取りや裏山でのカブト虫採りなどに夢中になっている。また、地域の寿会（高齢者の会）の方々との交流や長期休業中のバス遠足、おやつ作りなど、バラエティーに富んだ活動も行っている。子ども達は、「広場」をとても楽しみにしており、終礼後、「ただいま」という言葉で「広場」に入っていく。学校も、月に一回のスタッフ会に参加し、子どもの配慮事項や必要な情報を提供したり、スタッフの相談等に積極的に関わったりすることで、学校とは違った表情を見せる子ども達の姿が、子どもを理解する上でとても役立っていると感じている。

「広場」の第二の家庭的な役割と子ども同士の関わり合いは、本校の地域性から言ってとても有効な活動であると思う。迎えにきた保護者は、「広場」で家庭とは違った面を見せる子ども達の様子をスタッフから聞いたり、子育ての悩みなどを気軽に相談したりする姿も見受けられる。このように、地域の子ども達を、学校・家庭・地域が一体となって見守る活動は、3年目を迎えて非常に充実したものになっている。学校・広場・家庭での子どもの姿、どれも子どもの本当の姿であり、それぞれの立場の大人が連携して関わることが、これからはさらに重要になってくると思う。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第160号に掲載）